



労使トップが会談

2025春闘が事実上スタートする！

1月22日、経団連(十倉会長)と連合(芳野会長)の労使トップが会談し、2025春闘が事実上スタートしました。

経団連



"適正な価格転嫁と販売価格アップへの理解と共感の輪を"

「賃上げの定着にはおよそ7割の働き手を雇用する中小企業と、4割近くを占める非正規労働者などの賃上げが不可欠だ。適正な価格転嫁と販売価格アップへの理解と共感の輪を社会全体に広げていく必要がある」

去年と一昨年の賃上げの勢いを定着させ、中小企業や非正規労働者へと波及させることが重要だ。

連合

"日本経済の隅々まで賃上げが波及しなければならない"

「日本経済全体の底上げのためには中小・小規模事業者、日本経済の隅々まで賃上げが波及しなければならない。賃金、経済、物価を安定した巡航軌道に乗せることを労使で努力する春闘にしたい」



【25春闘方針】全体で5%以上、中小企業では6%以上の賃上げを目指す。

3年近くつづく、物価高で生活は苦しくなっていないですか？



2025年も物価高は止まりそうにもありません。帝国データバンクによると、今年1月から4月までに値上げが予定されている食品は、4ヶ月連続で1,000品目を超え、約6,100品目に達するといわれています。

日銀の「生活意識に関するアンケート調査」(24年10月発表)によると、暮らし向きに「ゆとりがなくなってきた」が52.7%に達し、物価に対する実感は「かなり上がった」63.8%、「少し上がった」30.9%と、9割以上が物価高を実感しています。「1年前に比べ、物価は何%程度変化したか」は、平均でプラス14.5%でした。14%もモノの値段が上がったら、生活が苦しくなるのは当たり前ではないでしょうか？

値上げラッシュで、私たちの生活は苦しいまま…。 東労組に結集して、賃上げを求めよう！